

事例8 政治の働きに関する学習内容をふまえて歴史学習の充実を図る事例

○学年 第6学年

○主な領域 内容(2)ア(イ)イ 天皇中心の国づくり

○事例のポイント

- ①政治単元で学習した知識をもとに、歴史的事象に対する問いを持てるようにする。
- ②政治単元の学習内容をふまえることで、歴史的事象に対する理解が深まるようにする。

ICTを活用した主な学習場面

自ら調べ、考えを共有・可視化し、課題を追究する学習

ICT活用の利点

- ①歴史的事象について身近に捉え、一人一人の興味関心に応じて主体的に学習を進めることができる。
- ②考えを共有、比較することで、課題を多様な視点で捉え、考えを深めることができる。

1 小単元名 「天皇中心の国づくり」(7時間)

2 小単元について(略)

3 小単元の目標と評価規準

(1) 目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、この頃の世の中の様子を考え、表現することを通して、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について考え、表現している。 ②大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	①大陸文化の摂取、大化の改新、仏像造営の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

4 小単元の指導計画・評価計画（7時間）

過程	○主な学習活動 ・ 学習内容	【評価の観点】 内容<方法> ※網掛けは評価した結果を記録に残す場面	資料等
つかむ	<p>①聖徳太子が行った政治について調べ、学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子と蘇我氏による天皇中心の国づくり ・遣隋使、小野妹子 ・冠位十二階 ・十七条の憲法 	<p>【態①】 聖徳太子後の政治の展開について予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっている。〈発言・ノート〉</p> <p>【思・判・表①】 この頃の世の中の様子や聖徳太子の目指した天皇中心の国づくりとその後の政治の展開に着目して、問いを見いだしている。〈発言・ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図「遣隋使交通路」
	<p>事例のポイント① 天皇の存在や憲法の位置づけなど、聖徳太子の頃と現代との違いに気づかせ、聖徳太子の頃の政治について問いを見出し、見通しを持って学習に取り組めるようにする。</p> <hr/> <p>学習問題 聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、誰がどのように受けついでいったのだろうか。</p>		
調べる	<p>②中大兄皇子と中臣鎌足が行った大化の改新や、政治の仕組みについて調べ、政治の特色について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中大兄皇子と中臣鎌足 ・藤原京 ・大化の改新で示された政治の方針 ・法律（律令） ・兵役 ・租・調・庸 	<p>【知・技①】 大化の改新や天皇の力の広がりについて、遺跡や文化財、地図資料などを調べて天皇中心の政治の基礎が確立したことを理解している。〈発言・ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図「都に運ばれてきた各地の主な産物と道」
	<p>事例のポイント② 政治単元の税に関する学習などを想起させることで、大化の改新の頃の政治の仕組みについて、現代社会の仕組みとも関連付けてより深く理解できるようにする。</p>		
	<p>③聖武天皇の取組について調べ、どのようにして世の中を治めようとしたのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平城京への遷都 ・都を支える地方の人々の生活 ・疫病、災害や反乱 ・聖武天皇 ・国分寺、東大寺 	<p>【知・技①】 聖武天皇の行った政治について遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、仏教の力を使って国を治めようとしていたことを理解している。〈発言・ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺分布図
<p>④大仏づくりについて、詔の内容や造営方法、資材搬入の経路地図などを基に天皇の影響力について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大仏をつくる詔 ・大仏づくりの人員 ・行基 	<p>【知・技①】 大仏造営について、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、仏教の力で国を治め天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。〈発言・ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・詔の現代訳 ・想像図「大仏づくりの様子」 ・地図「全国から集められた人や物資の図」 	
<p>ICT活用の利点① デジタルコンテンツを活用することで、大仏の巨大さや、造営工事の様子など、児童は教室にしながら実感することができる。</p>			

調べる	<p>⑤正倉院の宝物が渡来した経路や鑑真が来日したことなどを基に、外国との交流によって日本がどのように変化したか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遣唐使 ・正倉院の宝物 ・渡来人の活躍 ・鑑真来日 	<p>【知・技①】 正倉院の宝物や鑑真の業績について、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、大陸文化を摂取しながら天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。 〈発言・ノート〉</p>	・写真「正倉院の宝物」															
まとめる	<p>⑥調べてきたことを表に整理し、学習問題の結論をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物が新しい国づくりのために行ったこと ・聖徳太子の国づくりを受け継いだ点について考えること 	<p>【思・判・表②】 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。 〈発言・ノート〉</p>																
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="272 734 443 817">人物</th> <th data-bbox="443 734 1034 817">業績 ※各時間で調べた事実として、あらかじめ教師が表に提示しておいてもよい。</th> <th data-bbox="1034 734 1374 817">聖徳太子の国づくりを受け継いだ点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="272 817 443 1137">中大兄皇子 中臣鎌足</td> <td data-bbox="443 817 1034 1137"> <ul style="list-style-type: none"> ・大化の改新 ・全国の土地や人を国のものとして、天皇が治める。 ・豪族は貴族として政治に参加。 ・水時計を設置。 ※国を治める法律（律令）ができる。 租庸調：税を納める仕組みができ、全国の産物が都に集まる。 </td> <td data-bbox="1034 817 1374 1137"> <ul style="list-style-type: none"> ・中国の政治制度を手本として、天皇を中心に国を治めるしくみをつくった。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="272 1137 443 1301">聖武天皇</td> <td data-bbox="443 1137 1034 1301"> <ul style="list-style-type: none"> ・国分寺を全国につくる。 ・遣唐使を中国に送り、皇帝中心の政治の仕組みや大陸文化を学ばせる。 ・東大寺に大仏をつくる。 </td> <td data-bbox="1034 1137 1374 1301"> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教の力で国を治めようとした。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="272 1301 443 1384">行基</td> <td data-bbox="443 1301 1034 1384"> <ul style="list-style-type: none"> ・人々に大仏づくりを呼びかけた。 </td> <td data-bbox="1034 1301 1374 1384"> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教を広めた。人々の力を集めた。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="272 1384 443 1435">鑑真</td> <td data-bbox="443 1384 1034 1435"> <ul style="list-style-type: none"> ・日本に正式の仏教を伝えた。 </td> <td data-bbox="1034 1384 1374 1435"> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい仏教を広めた。 </td> </tr> </tbody> </table>				人物	業績 ※各時間で調べた事実として、あらかじめ教師が表に提示しておいてもよい。	聖徳太子の国づくりを受け継いだ点	中大兄皇子 中臣鎌足	<ul style="list-style-type: none"> ・大化の改新 ・全国の土地や人を国のものとして、天皇が治める。 ・豪族は貴族として政治に参加。 ・水時計を設置。 ※国を治める法律（律令）ができる。 租庸調：税を納める仕組みができ、全国の産物が都に集まる。	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の政治制度を手本として、天皇を中心に国を治めるしくみをつくった。 	聖武天皇	<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺を全国につくる。 ・遣唐使を中国に送り、皇帝中心の政治の仕組みや大陸文化を学ばせる。 ・東大寺に大仏をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教の力で国を治めようとした。 	行基	<ul style="list-style-type: none"> ・人々に大仏づくりを呼びかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教を広めた。人々の力を集めた。 	鑑真	<ul style="list-style-type: none"> ・日本に正式の仏教を伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい仏教を広めた。
人物	業績 ※各時間で調べた事実として、あらかじめ教師が表に提示しておいてもよい。	聖徳太子の国づくりを受け継いだ点																
中大兄皇子 中臣鎌足	<ul style="list-style-type: none"> ・大化の改新 ・全国の土地や人を国のものとして、天皇が治める。 ・豪族は貴族として政治に参加。 ・水時計を設置。 ※国を治める法律（律令）ができる。 租庸調：税を納める仕組みができ、全国の産物が都に集まる。	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の政治制度を手本として、天皇を中心に国を治めるしくみをつくった。 																
聖武天皇	<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺を全国につくる。 ・遣唐使を中国に送り、皇帝中心の政治の仕組みや大陸文化を学ばせる。 ・東大寺に大仏をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教の力で国を治めようとした。 																
行基	<ul style="list-style-type: none"> ・人々に大仏づくりを呼びかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教を広めた。人々の力を集めた。 																
鑑真	<ul style="list-style-type: none"> ・日本に正式の仏教を伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい仏教を広めた。 																
<ul style="list-style-type: none"> ・表をもとに、「聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、どのような国づくりといえるか」について話し合うこと ・学習問題の結論をまとめること。 	<p>【知・技②】 調べたことを文にまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。〈発言・ノート〉</p>																	
<p>ICT活用の利点② ホワイトボードソフト（ロイロノート）で学習問題の結論を共有し、自分にはなかった新しい考えに触れることにより、自分の考えを深めることができる。</p>																		

編 P49 指導計画作成の留意事項(2)

まとめる	<p>【学習問題の結論（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子の考えが大切にされ、受け継がれていった。なぜなら、その後に出てきた人物たちが、天皇中心の政治のしくみや仏教で国をまとめたから。 ・人物たちが聖徳太子の考えをリレーしていった。なぜなら… ・天皇中心の国づくりが、それぞれの人物によって確かなものになっていった。なぜなら… ・聖徳太子の考えが、どんどん形になっていった。しくみが整っていった。具体的に なっていった。なぜなら… <p>※調べてきたことを基にした理由とともに、「受け継いでいった」「確立していった」 ことにふれる結論となるようにする。</p>
------	---

5 本時の学習指導（1／7時間）

(1) 目標

- ① 聖徳太子が行った政治を、その後だれがどのように引き継いでいったのか問いをもち、学習問題をつくる。〈主体的に学習に取り組む態度〉
- ② この頃の世の中の様子や聖徳太子の目指した天皇中心の国づくりとその後の政治の展開に着目して、問いを見いだしている。〈思考・判断・表現〉

(2) 展開

○主な学習活動 ・学習内容	・指導上の留意点 評価<方法>	資料等	時間
<p>①前単元での既習事項を想起し、聖徳太子が遣隋使を派遣した目的から、本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大和朝廷について ・隋は、皇帝中心の政治のしくみが整い、文化も栄えていたこと ・聖徳太子は、新しい国づくりのため、小野妹子らを使者として隋に送り、進んだ制度や文化、学問を取り入れようとしたこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・大和朝廷は大王を中心に大和地方の豪族たちがまとまってつくった政府であること、大陸の進んだ技術や文化を積極的に取り入れていたことをおさえる。 ・この時代には、呼び名が大王から天皇に変わっていたことをおさえる。 ・大陸（隋）について、中学校の指導内容になるため、詳しくは触れない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図「遣隋使の交通路」 ・聖徳太子の肖像画 	5
<p>課題</p> <p>聖徳太子は、どのような政治を行ったのだろうか。</p>			
<p>②聖徳太子の行った政治について調べ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冠位十二階 ・十七条の憲法 ・天皇中心の国づくり ・法隆寺 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項とのつながりを意識しながら大和朝廷が統一を進めていたことや、豪族の力をおさえきれていないことなど、この頃の世の中の様子をおさえるようにする。 ・現代の民主政治とは異なる政治の仕組みであることに関心を向けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真「法隆寺」 ・「十七条の憲法」 	20
	<p>事例のポイント①</p> <p>「天皇」や「憲法」などについて、聖徳太子が活躍した頃と現代との在り方の違いから、聖徳太子の頃の政治に関心をもてるようにする。</p>		

児童のノート例

<p>③年表をもとに、聖徳太子が目指した政治がその後どのようなようになったのか予想しながら、学習問題について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年表をもとに聖徳太子後の政治の展開を予想すること ・学習問題をつくること 	<p>評 聖徳太子後の政治の展開について予想や学習計画を立て解決の見通しをもっている</p> <p>【態度①】 <発言・ノート> ⇒B規準に達しない児童への支援方法</p> <p>年表の出来事について、天皇中心の国づくりが続けられたとするなら、出てきた人物や「新しい法律」、大陸との関係はどのように関係するか、既習事項を基に予想するよう助言する。</p>	<p>・年表「聖徳太子とその後主な出来事」</p>	<p>15</p>
<p>自分と友達のことを比べている場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この単元でどのようなことを調べていくかを問いかけ、児童が予想を基に、聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりとの関わりで問いを見出せるようにする。 ・児童から出た考えを「誰が」「どのように」という視点で集約し、学習問題の設定につなげる。 		
<p>ICT活用の利点② ホワイトボードソフト (MetaMoji、ロイロノートなど) で考えを全体で共有し、似ている意見や新しい考えなどを見付け、多様な考えに触れ、思考の幅を広げる。</p>	<p>評 この頃の世の中の様子や聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりとその後の政治の展開に着目して、問いを見いだしている。</p> <p>【思・判・表①】 <発言・ノート> ⇒B規準に達しない児童への支援方法 学級で出た予想を疑問形で言い換えるよう助言する。</p>		
<p>学習問題 聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、誰がどのようにしていったのだろうか。</p>			
<p>④本時の学習を振り返り、単元の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童から出された問いについて、人物、政治の仕組み、法律 (国のきまり)、仏教、大陸とのつながりと天皇中心の国づくりとの関係を調べていくことを確認する。 		<p>5</p>



6 板書計画

【資料】 遣隋使の 交通路	【肖像】 聖徳太子	【肖像】 小野妹子	【資料】 十七条の憲法	【資料】 冠位十二階	【写真】 法隆寺
----------------------------	---------------------	---------------------	-----------------------	----------------------	--------------------

・ 隋に行って、勉強してきたんだ。だから日本って中国っぽいところがあるのかな。
・
・
・

【課題】
聖徳太子は、どのような政治を行ったのだろうか。

【資料】
十七条の憲法

- ・ 憲法によって、日本を一つにしようとした。
- ・ 位の与え方が平等でいい。
- ・ みんなをまとめるには、憲法が必要。
- ・ よい政治だからうまくいこう。

【資料】
冠位十二階

- ・ 道半ばでなくなってしまっている。
- ・ このあとどうなるのか？

【肖像】
聖徳太子
年表

- ・ このあとの人が聖徳太子の政治を続けていったのではないか。
- ・ 聖徳太子の政策だけでうまくいったのかな。

【学習問題】
聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、誰がどのように受けついでいったのだろうか。

7 事例のポイントと考察

(1) 事例のポイントについて

① 政治単元で学習した知識をもとに、歴史的事象に対する問いをもてるようにする。

学習内容と児童の普段の生活とを関連させることが難しい歴史単元の学習では、いかに児童に実感をともなった問いをもたせるかが重要になる。

本事例では、児童に、政治単元で学習した現代社会の仕組みに関する知識をもとにして、現代の日本との比較から歴史的事象への問いをもたせるようにした。

天皇の地位や、政治の仕組み、租税など現代と古代では異なる点もある。児童には、授業の際にこのような違い（現代と歴史的事象とのズレ）を意識させた。その違いから、聖徳太子から聖武天皇の頃の日本ではどのような国づくりを目指していたのか、誰が取り組んでいたのかなどの問いをもつとともに、追究の見通しをもつことができた。

② 政治単元の学習内容をふまえることで、歴史的事象に対する理解が深まるようにする。

本単元では、政治単元で学習した現代の政治をふまえ、聖徳太子や聖武天皇の頃の歴史の展開を考える活動を通して、過去の出来事は他人事ではなく、現代（自分事）に関係していることに気付かせるとともに、より理解を深められるようにした。例えば、現代で国家規模の大仏造営を行うことになれば、国会で話し合いをしたり、予算をたてたりしながら事業を進めていくことになる。しかし、当時は天皇の発案により大仏造営が進められ、予算も中央にお金（品物）が集まる仕組みを生かし、集中的に使われたと考えられる。このように、政治単元での学習内容をいかすことで、児童は当時の中央集権国家の特徴を、現代との比較を通してより理解することができる。

ICTを活用した主な学習

① 歴史的事象について身近に感じることができ、一人一人の興味関心に応じて主体的に学習を進めることができる。

本実践では、東大寺3Dバーチャル参拝、奈良市観光協会サイトなどを利用して調べる活動を行った。児童は実際に訪問しなくても大仏の大きさを実感したり、当時の様子をつかんだりすることができた。また、児童が自ら見たい、知りたい部分を選んで調べることができるので、さらに興味関心をもった児童は主体的に調べ進めようとする様子が見られた。



出典 東大寺3Dバーチャル参拝
<https://www.todaiji.or.jp/virtual/3dpvr/todaiji>



出典 奈良市環境協会サイト
<https://narashikanko.or.jp/feature/daibu>

② 考えを共有、比較することで、課題を多様な視点でとらえ考えを深めることができる。

ホワイトボードソフト（ロイロノート）を使用して考えを共有、比較、分析し、課題の結論に迫る活動を行った。自分の意見と友達の意見を比べる活動から、多様な考え方に触れ、多角的に課題について考えることができる。また、考えを表現することが苦手な児童は、友達の意見を見ながら自分の考えに近いものを見つけ、表現することができる。

(2) 実践に当たっての留意点

小学校の歴史学習は、事象を手掛かりに人物で学習していくことを意識する必要がある。通史で行う学習は中学校である。学習を進めるうちに、児童によってはより詳細な内容に進むことも考えられるが、教師は中学校学習指導要領の内容を意識し、小学校社会科の目的を踏まえた授業作りをすることが重要である。学習内容が重ならないように注意しながら、社会科の小中連携をはかっていきたい。そのために、小・中学校の学習指導要領解説や教科書を見比べて教材研究を行うことも大切である。